

コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2022年11月25日

BMJ:

新型コロナ：イギリスの状況

【松崎雑感】

BMJの記事でイギリスの現状の紹介です。イギリスは、調査レベルの大きさが低下したとはいえ、統計学的にしっかりしたサーベイランスが継続されているようです。一方、モノクローナル抗体のエバシールドが、あれこれの理由を付けてイギリスでは承認されないことが問題となっています。それぞれの国のアドバイザー専門家の意見に従っていると思われれます。これを見ると、日本は、あどざいざりーが政権と一体化しているような印象を持ちます。科学は政治から独立すべきだと思います。

新型コロナ：イギリスの状況

Mahase E. [Covid-19: Is the UK still tracking the virus-and other questions answered.](#) *BMJ*. 2022;379:o2802. Published 2022 Nov 18. doi:10.1136/bmj.o2802

発生患者数がつかめているのか？

今年初めからイギリスではコロナサーベイランスが縮小されたが、国家統計局はオンラインでの病状調査と咽頭スワブ、血液検査を継続中である。Real-time Assessment of Community Transmission (REACT-1) studyも継続中である。

ZOE covid studyもイングランド保健社会福祉省の予算を受けて、感染者と症状の調査を継続中である。これは調査参加者が毎日スマホで症状を報告するシステムである。

コロナの検査は十分に行われているのか？

これらのサーベイランスを除いて、人々がNHSの無料PCRを受けることはできない。政府は薬局などで迅速抗原検査を買って検査するように国民に呼びかけている。医療機関や介護施設に勤める人々は無料の迅速検査を受けられる。また、病院や地域で治療を受ける必要がある病弱な人々も検査を受けられる。

新たな変異株は流行しているのか？

大規模な検査は終了したが、前記の様々なサーベイランスを通じて、ある程度変異株の追跡が行われている。英国健康安全保障庁の最新の報告（10月2～8日）によれば、国内の流行株は、「0.5% were BA.2, 0.6% BA.4, 87.4% BA.5, 5.5% BA.2.75, 4.5% BA.4.6 and 1.5% were “other.」と、大半がBA5だった。

XBBとBQ.1も発見されている。

XBBは、BA2の派生株BJ1とBM111の組み替えによって発生した変異株で、10月11日に最初に発見された。これらの新たな変異株の情報は28か国が参加するGISAID (the global open access genomic database)に集積されている。

一方、BA5から派生したBQ1は9月12日に最初に発見された。この株のスパイク蛋白には複製力を強める変異が存在し、その後、アメリカとイギリスで多く発見されている。

BQ111とともにBQ1が現在アメリカで主流株となっており、新規患者の44%を占める。BA5は30%に低下した。

イギリスに次の波が来始めているのか？

国家統計局の感染サーベイランスと政府のコロナダッシュボードによれば、現時点で、新規感染者と入院者は減少している。

11月8日までの1週間で、イングランド国民の1.73%（60人に1人）が検査で陽性となった。その前の週は2.43%だった。北アイルランド、スコットランド、ウェールズでも検査陽性率は低下中である。入院数もイギリス全体で10万人中5.37人から5.00人に減少している。一日あたりの死亡数は横ばいである。

しかし、イングランドとウェールズの最近5年を基準とした超過死亡数は1517名である。

コロナとインフルエンザのワクチン接種プログラムはどうなっているか？

この秋にコロナワクチン3回目接種が始まり、対象者の半数1340万人がブースター接種を受けた。一方1400万人がインフルエンザワクチンを受けている。可能な場合、同じ日にコロナとインフルエンザワクチンを別々の腕に接種できる。

NHSイングランドは、ワクチン未接種者100万人にリマインダーを送った。イングランド東部の薬局では、民族的マイノリティの人々に情報が届くように、それぞれの言語を用いたビデオを製作している。

イギリスは「ウイズコロナ」に転換したのだから、隔離は不要では？

NHSは、コロナ陽性の人々は5日間自己隔離するように呼び掛けている。また、10日を過ぎるまでは、感染に弱い人々と会わないように行動を控えることも呼び掛けている。

さらに、検査を受けていない場合、発熱や普段の生活ができないような体調不良がある場合は、できるだけ自己隔離をするように勧めている。

感染に弱い人々はどのように政府の方針を守ればよいのか？

感染に弱い人々は、コロナパンデミックの初期にNHSがすべての国民に呼びかけたものと同じ対策を続けることが勧められる。

具体的には、買い物、公共交通利用時はマスクをする、他の人々との距離を2メートル以上とるなどである。またリモートワークを進めること、人と会う場合はできるだけ屋外で会うことも勧められる。

しかし、ウイズコロナという政府の方針に、感染に弱い人々を守る様々な対策が十分含まれていないため、不満が大きい。

例えば、ほかの国々では、中等度から重症の免疫低下状態を持つ人々のための感染予防薬として認可されているモノクローナル抗体薬エバシールドがイギリスでは承認されていない。

しかしながら、11月16日に国立医療技術研究所が発表したガイダンスによれば、イギリス政府は、費用効果が低いこと、オミクロン株への有効性が確認されていないことを理由にエバシールドの認可はしないと述べている。

リード大学准教授ステファン・グリフィン氏は、このガイダンスに対して「次々の感染の波が起きることが予想される中で、感染に弱い人々に対する予防薬の投与ができないとすれば、これらの人々を見捨てることになる」とコメントしている。